

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 22 年 2 月 19 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503817		
法人名	有限会社 ウェル・ビーイング		
事業所名	グループホーム とらいあぐる太陽		
所在地	〒003-0825 札幌市白石区菊水元町5条2丁目2番18号 (電話) 011-872-7335		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成22年2月15日	評価確定日	平成22年2月19日

【情報提供票より】 (平成22年 1月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 18 年 2 月 21 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8.75 人	

(2) 建物概要

建物構造	SRC 造り		
	9 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円		
その他の経費(月額)	光熱費20,000円 冬期暖房費11,000円		
敷 金	有(家賃2ヶ月分) <u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (2月15日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護 1	0 名	要介護 2	4 名
要介護 3	1 名	要介護 4	2 名
要介護 5	名	要支援 2	1 名
年齢	平均 76.6 歳	最低 66 歳	最高 82 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青空たけうち内科クリニック・北海道脳神経外科記念病院・札幌 センチュリー病院・札幌デンタルクリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、幹線通りから少し奥まったマンションが建ち並ぶ比較的閑静な地域の一角に位置する9階建てビルの1階にある。半径500メートル以内に郵便局・銀行・クリーニング店・中型スーパー等があり、生活していく上で便利な環境にある。事業所の入口を入ると直ぐ右側に緩やかなスロープがあり、その先が玄関となっており、冬の北海道に適應した造りとなっている。玄関から入り、廊下の両側が居室となっている。右側に行くと南側に日射しの明るい共用スペースと台所がある。反対側に事務所があり、利用者を常時見守れるようになっている。各居室及びトイレには緊急時対応の呼び出しボタンがあり、利用者は安心してゆったりとした生活を過ごしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題については、全て外部評価を受けた後に、母体組織と事業所(管理者・職員)が話し合い、改善に向けた取り組みがなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が全職員に評価の目的・意義を説明した後に、各職員が自己評価を行い、管理者が職員と話し合いまとめている。改善点については、ユニット会議にて取り組みについて話し合っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議については、開設当初より定期的に開催されており、町内会副会長・副支部長・民生委員・包括支援センター職員・利用者が参加しており、来月からは、利用者にとって家族同然の方が参加することになっており、事業所の状況や活動内容についての報告し、虐待や権利擁護、認知症への理解を求める話し合いがされている。今後は、地域における災害への対応についても話し合いが行われる予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置し、苦情相談窓口も利用者及び家族に周知されている。月に一回は家族が訪問し、その時に必ず管理者か職員が対応している。家族の要望・苦情は管理者に伝える仕組みが出来ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、花壇の苗植えや運動会などに参加している。七夕等の行事には、近隣の保育所・小学校との交流がある。また、クリスマス会にボランティアのマジックが利用者を楽しませている。今後さらに地域ボランティアの活動の受け入れを拡大させていく予定である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい、安心した生活を地域と共に、いつまでも提供します」という事業所独自の理念を掲げ、心身の痛みを緩和し、心を癒し、生活に満足できるように支援していける介護を心掛けている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホーム内の目立つ所に掲示されており、ユニット会議や様々な会議の中で、理念の共有及び実践に向けた話し合いを日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	花壇の苗植えや敬老会・運動会など町内会の行事に参加し、事業所の行事には、近隣の保育園・小学校との交流や、ボランティアの受け入れを行っている。今後もさらに地域ボランティアの活動の受け入れの拡大と、災害時のマンション住人を中心とした地域との連携を図っていく予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義をユニット会議において全職員に周知した上で、各職員が自己評価を行っている。それを管理者が各職員と話し合いながらまとめるとともに、改善策を検討している。外部評価についても、ユニット会議で取り上げ、改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設当初から定期的開催されている。町内会副会長・包括支援センターの職員・利用者等が参加しており、来月から利用者にとって家族同然の方も参加することになっている。地域や利用者家族への情報提供や意見を伺おうとする取り組みがされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	札幌市が開催する研修や会議には積極的に参加しており、担当者とも事業所の状況を報告し、相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「太陽通信」を月1回、金銭管理の記録と共に家族に送って、利用者の近況報告をしている。また、利用者の状態が変化した場合は、速やかに家族に状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情意見箱の設置や苦情相談窓口の周知などを行っている。また、家族の訪問時には、職員が利用者の状況を丁寧に説明し、意見・要望等を聞き取るよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の異動があっただけで、職員の異動はない。管理者の場合も事前に利用者への説明がされており、利用者に対する影響を防ぐ努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部研修等に参加し易い体制になっている。また、研修内容はユニット会議で報告され、全職員が周知できるようになっている。しかし、母体組織以外の研修を受ける体制にはなっていない。	○	今後は、母体組織以外に職員を派遣する等、研修のあり方を見直す仕組み作りに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今までは、ケアマネージャー等が地域連絡会に出席する程度であったが、今後は管理者も含め職員についても同業者との交流を図っていく方向で進んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前から事前利用を含め、介護サービス利用の検討を行い、本人や家族と話し合いながら、徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者各々の生活歴・能力を踏まえた上で料理の盛り付け・茶碗拭き等を手伝ってもらったり、趣味活動やゲーム等を職員と共に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人や家族からの意向や希望・生活歴・病歴等を聞き、センター方式の基本情報シートにおいて把握しており、生き甲斐のある生活が送れるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を利用しており、本人や家族の要望・意見を参考にして介護計画を作成している。さらに、職員に対しても情報の共有化が図られるようにカンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた計画の見直しを行っている。期間内で改善されていない事案については、関係職員で話し合い、改善に向けた新たな計画を作成している。また、状態・症状等に変化が生じた際には随時介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望や家族の状況に応じて、通院・送迎等を行っている。また、買い物にも職員が同伴している。利用者の趣味活動には出来るだけ対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医に加えサービス看護ステーションとの医療連携体制は出来ている。現在のところ要望はないが、希望する医療機関の受診に対する支援は出来る体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護サービス開始時から家族と重度化した場合や終末期の対応を話し合っており、家族・医師・職員の間でも話し合いの中で方針の共有化を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念の趣旨を踏まえ、利用者に対する言葉遣いや失禁時の対応には十分注意して介護している。個人情報、外部から見えないように鍵付きの棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式における基本情報より利用者一人ひとりの生活習慣を把握しており、ペースを乱すことのないように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一応献立は決めるが、利用者の希望により変更することもある。利用者と一緒に準備したり、後片付けをしている。職員と一緒に食事をして、楽しい雰囲気作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は基本的には決まっているが、利用者一人ひとりの健康状態や希望等を考慮した声掛けをして、気持ちよく入浴してもらえる工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの健康状態を考慮しながら、食事の準備・後片付けなど役割分担を自主的に持ってもらえるような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、園芸・散歩・買い物に出かける。家族の協力を受けながら外食・外泊もしており、花見などの行事を企画し、参加してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯は、防犯上の理由で施錠している。玄関にセンサーを設置しているが、基本的に外出する気配に注意して、外出する場合は止めることなく、一緒に見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防訓練を行っている。現在、町内会の会議に出席して地域防災の観点から事業所の役割を提案している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が2週間ごとに献立を提供しているが利用者の希望等には柔軟に対応している。日々利用者一人ひとりの食事摂取量及び水分量を記録しており、特に水分量については、必要量が摂取出来るように工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は南向きで、窓から明るい日射しが心地よく射している。適度に季節感を感じさせる装飾がされている。また、隣に事務所があり、居間全体や玄関に注意出来るようになっている。不快な臭いや音を発する物もなく、居心地よく過ごせる雰囲気が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は車椅子の出入りにも対応出来る造りになっている。利用者が使い慣れた物が持ち込まれており、家族の写真や好みの物を貼れる場所も確保されている。		

※  は、重点項目。